

領域Ⅱ 男女双方の意識改革

1 性差に係る固定的な意識の解消

性別にかかわらず、自分らしく選択できていると感じている人は **61.8%**

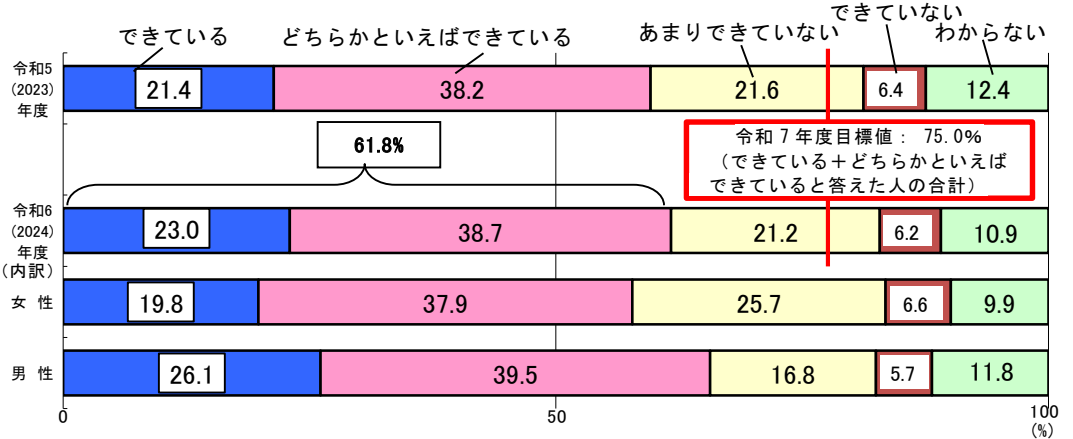
性別にかかわらず、働き方や暮らし方を自分らしく選択できていると感じている人は、全体で61.8%となっており、前年度より2.2ポイント増加しました。男女別にみると、女性(57.8%)より男性(65.6%)のほうが割合が高くなっています。

社会全体で「平等」と回答した人の割合は **女性 4.5%**
男性 14.5%

男女の地位の平等感について、社会全体において「平等」と回答した人の割合は9.9%となっており、前回調査より4.8ポイント減少しました。中でも「平等」と回答した女性の割合は4.5%で、男性の割合より10ポイント低い状況にあります。引き続き、性別に関する固定的な意識の解消に取り組む必要があります。

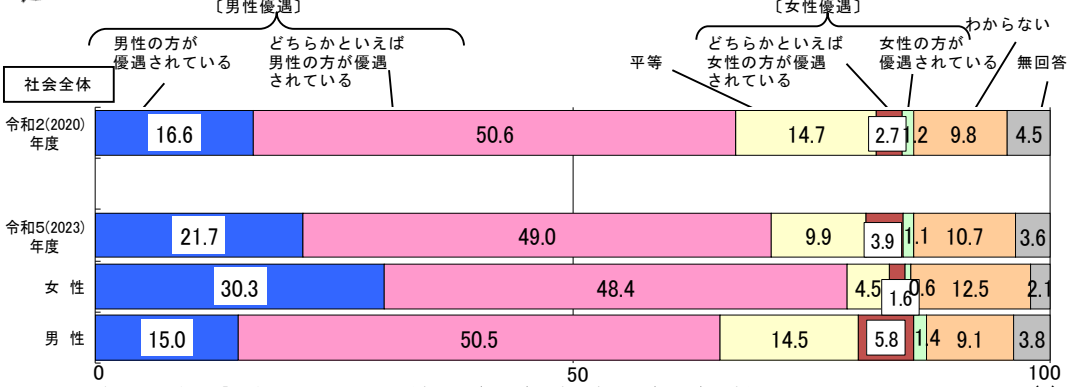
また、全国の男女の地位の平等感について、社会全体において「平等」と回答した人の割合は令和元年9月調査では21.2%であったのに対し、令和4年11月調査では14.7%と6.5ポイント低下しています。

36. 性別にかかわらず、働き方や暮らし方を自分らしく選択できていると感じている人の割合



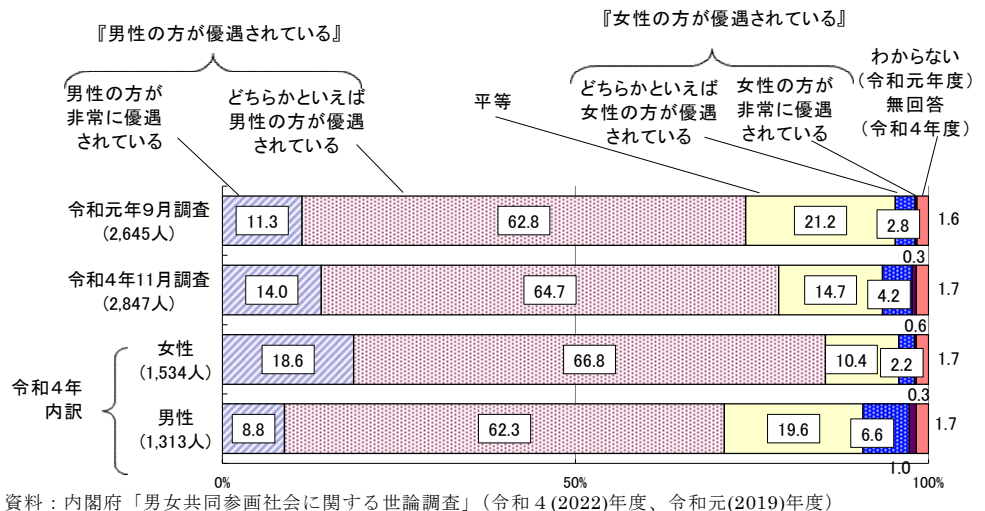
資料：広島県「男女双方の意識改革に係る調査」(令和6(2024)年度、令和5(2023)年度)

37. 男女の地位の平等観



資料：広島県「広島県政世論調査」(令和5(2023)年度、令和2(2020)年度)
(調査対象は、県内在住の満18歳以上の県民2,000人)

37-1.【参考】社会全体における男女の地位の平等感(全国)



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和4(2022)年度、令和元(2019)年度)

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきとの意見に

賛成 37.5%

反対 62.5%

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方については、反対計が賛成計を大きく上回っています。

男性の賛成計 44.5%、女性の賛成計は 30.3%と 14.2 ポイントの男女差が見られます。

また、世代別で見ると賛成と答えた割合が最も高かったのは 50 代の 43.6%、反対と答えた割合が最も高かったのは 60 代で 67.6%でした。

男女の役割について『家計を支えるのは男性の役割である』では「そう思う計」が「そう思わない計」を上回っています。

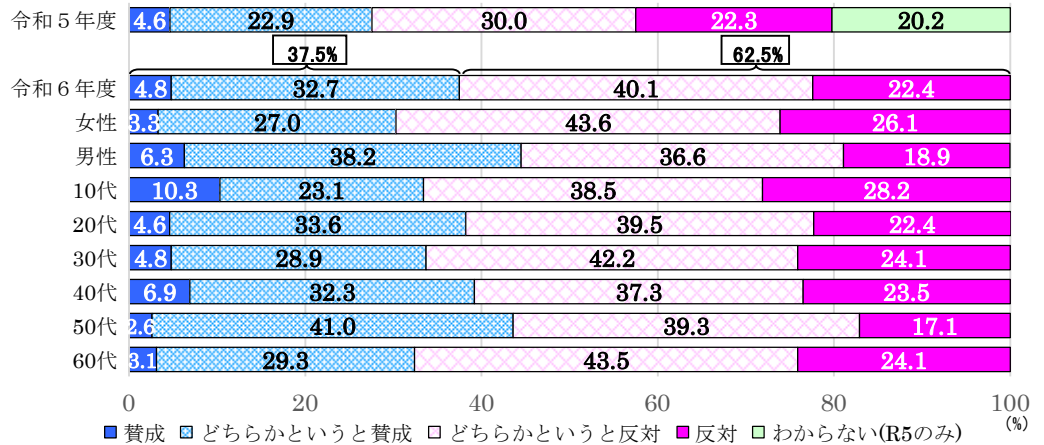
その他の項目では「そう思わない計」が「そう思う計」を上回っており、多くの項目で「そう思わない計」が大きく、上回っています。

性別に関する意識について、他者から影響を受けている人は、

70.0%

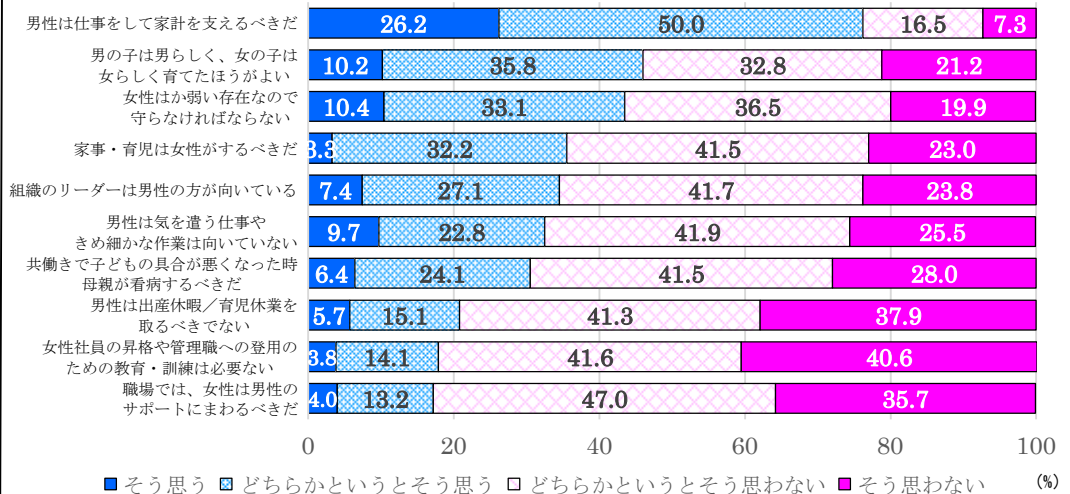
性別に関する意識について、影響を与えた存在は、「親」と答えた人が 33.6%で最も多く、次いで「配偶者・パートナー」「職場、上司、同僚」の順で割合が高くなっています。

38. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方への意識



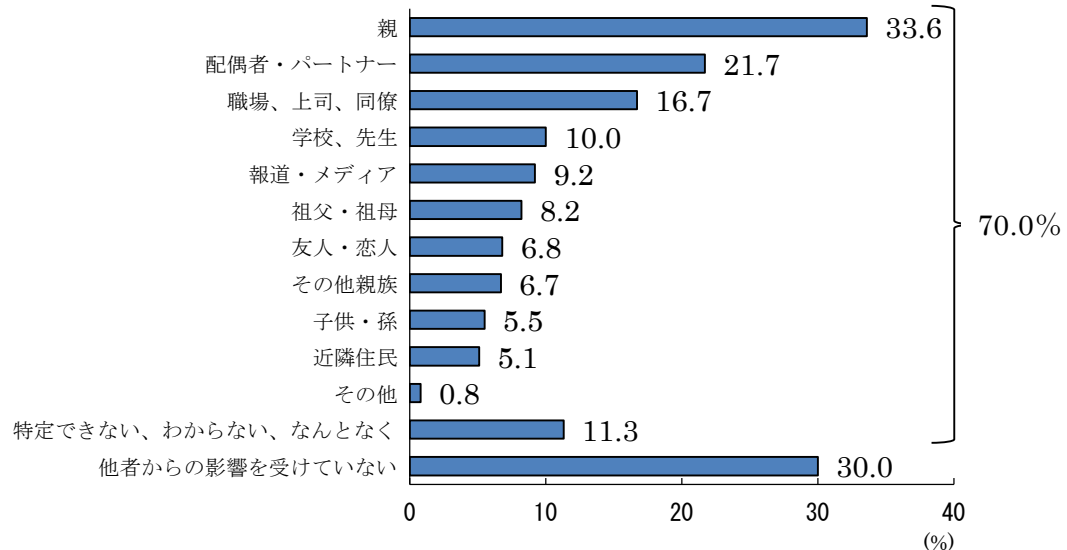
資料：広島県「男女双方の意識改革に係る調査」(令和6(2024)年度、令和5(2023)年度)
(調査対象は、県内在住の15歳～69歳の男女1,038人)

38-1. 男女の役割に関する意見



資料：広島県「男女双方の意識改革に係る調査」(令和6(2024)年度)
(調査対象は、県内在住の15歳～69歳の男女1,038人)

38-2. 性別に関する意識について、影響を与えた存在（複数回答）



資料：広島県「男女双方の意識改革に係る調査」(令和6(2024)年度)
(調査対象は、県内在住の15歳～69歳の男女1,038人)

2 主体的に仕事やライフスタイルを選択する意識の醸成

「高校生のためのライフプランニング教育プログラム」等を実施している学校は **30校**

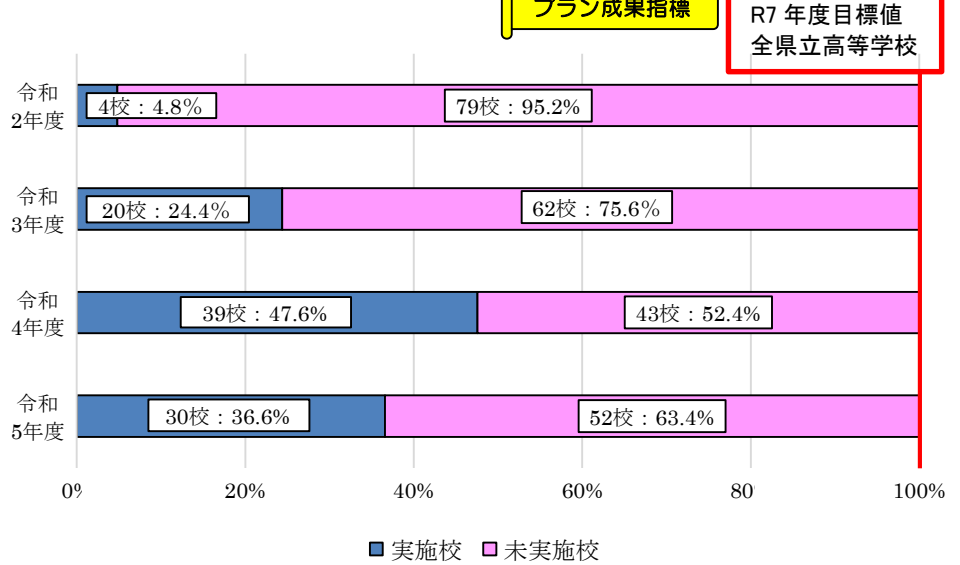
ライフプランニング教育プログラム等を実施している県立高等学校は 82 校中 30 校 (36.6%) と、前年度より、9 校減少しています。

【高校生のためのライフプランニング教育プログラム】
様々なライフイベントを踏まえた生活の中で、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら高校生が主体的に判断し、考え意思決定できる能力と態度を育成するプログラム。

大学進学率は
女性 **59.2%** で
過去最高

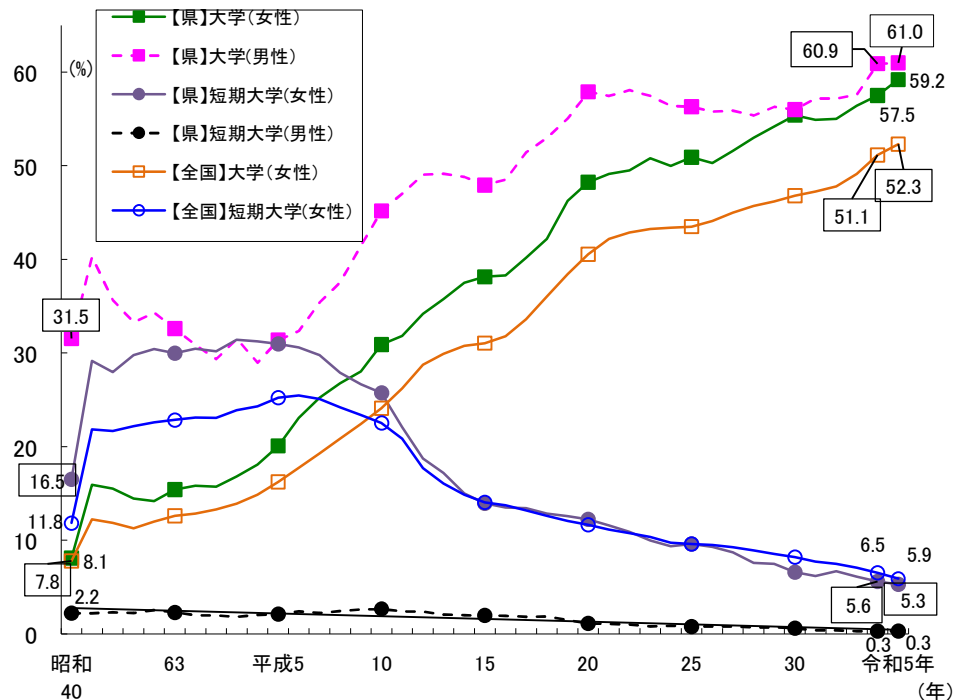
女性の大学への進学率は上昇傾向であり、令和5(2023)年度は、女性59.2%と全国の52.3%を大きく上回っています。また、男性の進学率も61.0%と、過去最高値を更新しました。男女差は、前年度3.4ポイントでしたが、今年度は1.8%とその差は縮まりました。

39. 「高校生のためのライフプランニング教育プログラム」等を実施している学校数



(注) 学校数は県立高校(定時制・通信制・分校を含む)。
資料: 広島県教育委員会調べ(令和5(2023)年度)

40. 男女別大学・短期大学進学率の推移(全国・県)

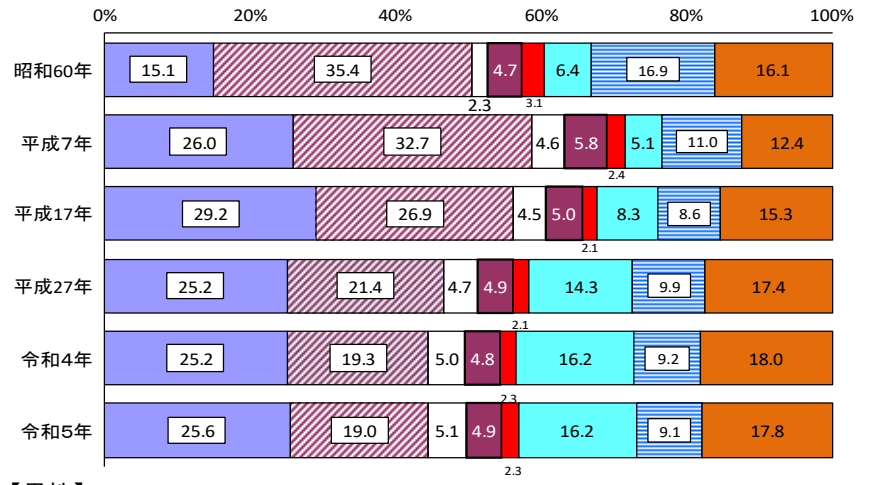


(注) 昭和60年以前の数値は通信過程を卒業した者を含まない。
資料: 文部科学省「学校基本調査」(令和5(2023)年度)

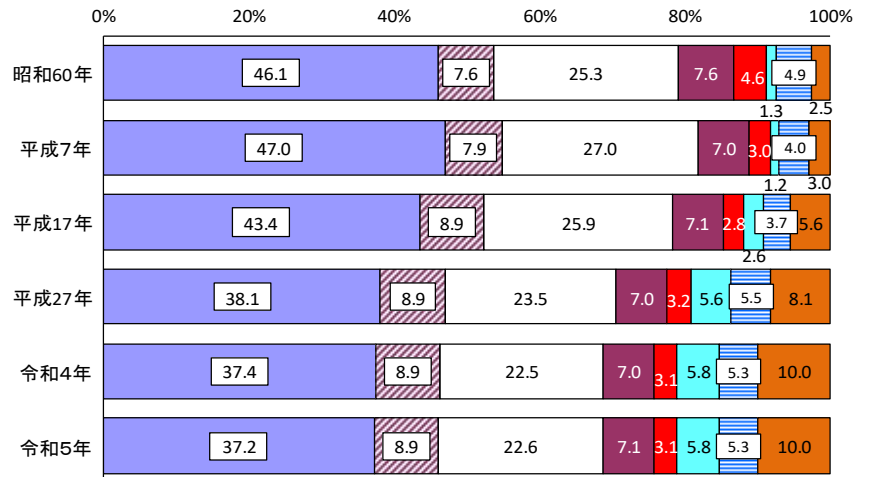
41.【参考】専攻分野別学生割合（大学（学部））の推移（全国）



【女性】



【男性】



（注）その他は「家政」「芸術」「商船」「その他」の合計
国立・公立・私立の全てを含む。

資料：文部科学省「学校基本調査」（令和5（2023））